

II-3 地域環境との共生

1 環境アセスメントの実施状況

小丸川発電所及び50万ボルト小丸川幹線の新設工事においては、環境に配慮した工事を実施しています。

1 工事の概要

九州電力は、電力の安定供給のため、電源の開発と電力輸送設備の拡充強化を進めています。

この一環として、宮崎県木城町に、負荷追従性に優れ、起動停止が迅速に行える揚水式発電所を建設し、電力消費のピーク時及び緊急時対応用の電源とするとともに、小丸川発電所から宮崎変電所間に、2006年7月を目途に50万ボルト小丸川幹線を新設することとしています。

小丸川発電所概要



発電所所在地	宮崎県湯都木城町
水系・河川名	小丸川水系小丸川及び大瀬内谷川
発電方式	ダム水路式(純揚水式)
最大出力	120万kW(30万kW×4台)
最大使用水量	222m ³ /s
有効落差	646.20m
運転開始	2007年7月:30万kW(Ⅰ期-1)
	2008年7月:30万kW(Ⅰ期-2)
	2010年7月:30万kW×2(Ⅱ期)

ルート概要



2 工事における環境配慮

小丸川発電所建設に際しての環境配慮

◇河川水質の保全

工事による河川水質への影響を避けるため、工事区域毎に「濁水処理設備」を設置して、濁水を浄化しています。

◇建設汚泥の再資源化

建設工事において濁水処理設備から発生する建設汚泥(濁水を浄化した際に残る土粒子分)は、極力現場内でリサイクルすることとしています。

◇貴重動植物の保護

自然豊かな小丸川流域では、多くの貴重動植物が見られ、小丸川発電所の工事区域周辺でも、クマタカ(環境庁レッドデータブックにおける絶滅危惧種)や、この地方で貴重といわれるコウヤマキ等が確認されています。

●クマタカ保護対策

当建設工事では、クマタカへの工事の影響の有無を把握するため生態調査を実施し、繁殖期に騒音の出る工事を避けるなど保全対策を行っています。

●コウヤマキ保護対策

当建設工事では、移植可能である全体の約8割を仮移植し、上部調整池完成後、調整池周辺に植樹する予定です。

以上のような当建設工事における環境保全対策をより体系的に行うため、小丸川発電所建設所では、2001年8月に国際規格であるISO14001の認証を取得しました。

50万ボルト小丸川幹線建設に際しての環境配慮

◇自然環境調査の実施

当建設工事につきましては、1999年6月に施行された環境影響評価法での対象事業には該当していませんが、最近の環境保全への関心の高まりから、特に自然環境に与える影響について調査を実施し、保全措置を確実にを行うこととしています。

◇動植物、景観、綾の照葉樹林に対する調査概要

動植物に対しては、文献や既往の植生図等をもとに現地調査を行いました。景観に対しては、計画ルートを眺望できる主要観光施設等から見た送電線完成後の景観の変化についてモンタージュを作成し予測しました。

また、綾町及び専門家の意見を受けながら、計画ルートと綾の照葉樹林との関係性を評価しました。

◇総合評価

自然環境調査による影響の予測に対して必要な保全措置を確実に実施することで特に重大な影響を及ぼす事はないと評価されます。

また、計画ルート通過地はスギ・ヒノキの人工林あるいは、林齢の若い二次林区域であり照葉樹林への影響はないものとの評価を得ています。

◇必要な保全対策

動植物に対する保全措置として、クマタカやニホンカモシカの繁殖期における工事休止、必要最小限の伐採の実施、重要な種の移植も含めた保護対策の実施、工事完了後の土地本来の樹種での植栽で再生を図る等の保全対策を行います。

景観に対する保全措置として、部材の光沢をおさえ背景になじませて調和を図る対策等の保全対策を実施することとしています。